

1. 略歴

- 1976年3月 東京大学文学部考古学専修課程卒業
 - 1978年3月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了（考古学）
 - 1981年3月 東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学（考古学）
 - 1981年4月 東京国立博物館学芸部東洋課東洋考古室研究員
 - 1988年7月 東京国立博物館学芸部東洋課主任研究官
 - 1990年4月 東京国立博物館学芸部北東アジア室長
 - 1996年4月 東京大学文学部助教授（附属文化交流研究施設朝鮮文化部門）
 - 1998年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（附属文化交流研究施設朝鮮文化部門）
 - 2002年4月 東京大学大学院人文社会系研究科助教授（韓国朝鮮文化研究専攻）
 - 2010年8月 東京大学大学院人文社会系研究科教授（韓国朝鮮文化研究専攻）
- 現在に至る

2. 主な研究活動

a 専門分野

韓国朝鮮を中心とする東アジアの考古学

b 研究課題

- (1) 朝鮮半島の古代国家の成立と発展過程を考古学資料から追求している。とくに、高句麗、新羅、百濟、加耶の相互交流を中心として、比較研究している。
- (2) 高句麗の積石塚と壁画古墳の多様性から、国内社会の内的成長発展を探ることによって、一国における国家形成の過程を追求している。
- (3) 朝鮮考古学史では、戦前に朝鮮総督府を中心として行なわれた考古学発掘調査の成果を学術的な面から探っている。植民地政策としての古蹟調査事業のなかで、いかに学術的成果をあげてきたか、また日本における考古学の発展とどのようにかかわってきたかを追求している。

c 主要業績

(1) 著書

単著、早乙女雅博、『新羅考古学研究』、同成社、2010.5

(2) 論文

早乙女雅博、「高句麗壁画古墳の模写資料」、『つながる図書館・博物館・美術館・文書館』、東京大学出版社、2011.5

早乙女雅博、「慶州西岳洞石枕塚出土遺物」、国立慶州文化財研究所『新羅古墳精密測量及び分布調査研究報告書』、国立慶州文化財研究所、2011.8

早乙女雅博、「植民地期日本人研究者の楽浪認識」、『楽浪漆器』樋田豊郎編、美学出版、2012.2.

(3) 学会発表

国内、早乙女雅博、「考古学から見た新羅の国家形成」、メトロポリタン史学会第6回秋季シンポジウム、2010.11.20

国内、早乙女雅博、「東山洞高句麗壁画古墳の共同学術調査」、日本考古学協会第77回大会、2011.5.29

(4) 監修

早乙女雅博、『韓国国立博物館（世界の博物館26）』、朝日新聞出版、2012.2

(5) マスコミ

「「小倉」権威者教授」、『ハンギョレ新聞』（韓国）、2010.8.11

「平壤に高句麗壁画古墳」、『中国新聞』、2010.8.15

「平壤・東山洞壁画古墳を調べて」、『愛媛新聞』、2010.8.21

「高句麗古墳日朝考古学者が再発掘」、『東京新聞』、2011.10.31

「高句麗壁画古墳調査」、『山形新聞』、2011.11.25

(6) 受賞

国内、早乙女雅博、日本建築学会賞、日本建築学会、2010.5.31

(7) 教科書

『高校日本史』、早乙女雅博他、執筆、山川出版社、2010、2011

(8) 共同研究（産学連携除く）

国際、社会科学院考古学研究所、「東山洞壁画古墳共同学術調査」、2010

国際、社会科学院考古学研究所、「高山洞1号壁画古墳共同学術調査」、2011

3. 主な社会活動

(1) 学会

国内、日本考古学協会、国際交流委員会委員長、2011.5～2013.5

国内、文化遺産国際協力コンソーシアム、委員、2010、2011

国内、日本考古学会、幹事、2010、2011

国外、高句麗渤海学会、海外学会諮問委員、2010、2011

(2) 行政

世田谷区文化財保護審議会委員、2010、2011

(3) 他機関での講義

学習院大学文学部「考古学概説」2010年度

駒澤大学大学院「考古学特講Ⅳ」2010年度

駒澤大学大学院「考古学特講Ⅴ」2011年度

(4) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

財団法人東洋文庫、研究員（客員）、2010、2011